

進学・学習の軌跡

義務づけを開始。
(平成十六年度)

⑤大学入試センター試験
利用入試を実施する
私立大学の増加。

⑥私立大学全体の易
化。定員割れを起こす大学と、志願者が集中する大学の、私立大学二極化。

⑦書類・面接・論文等で受験生の人物や適性を
時間をかけて評価する「AO入試」の増加。

⑧短期大学でも大学入試センター試験利用入
試を開始。(平成十六年度)

⑨平成十五年度入学生から高校での新教育課
程がスタート。その生徒が受験する大学入
試も新課程入試を開始し、英語ではリスニン
グテスト受験が必須に。(平成十八年度)

本校の学習指導・進路指導

①土曜日の活用

完全学校週五日制に伴い、県の「自学自
習支援事業」で派遣された非常勤講師と本
校職員による、土曜日の「学習会」「補習
授業」をほぼ月2回実施した。(平成十四
年度～平成十六年度)

これは授業時数の減少を補うためのもの
で、特に大学受験に直結する教科の演習な
どの時間として活用された。

平成十七年度からは「土曜学習」として、

生徒全員を出校させての補習授業を月2回
の予定で実施している。授業に準ずる扱い
の補習とし、年間の時間割に従って進路希望
実現のために直接関わる内容を扱っている。

②二期制の導入(平成十六年度)

始業式や終業式、定期考査の回数が減る
分の授業時数を確保することから始まった
二期制導入の論議だったが、実際は時数
確保の面では期待したほどの差はなく、そ
の論議の中で学校の計画全体を見直すきつ
かけができたことが大きなメリットであつ
た。学校行事の精選・位置づけ・実施時期、
長期休業の活用、一単位時間の弾力的運用
など、新たな発想や取り組みが生まれ、学
校の活動全体に対する刺激剤にはなったと
考えている。

進路指導面では、長期休業をどう活用す
るかが大きな課題となる。大学志望者のオ
ープンキャンパス、就職希望者のインター
ンシップ、看護体験・医師体験・リハビリ
体験・保育体験、などには多くの生徒が参
加しており、これを有効に活かすことがこ
れまでとは違った、学期途中に位置する長
期休業の活用法のひとつと言える。

③五十五分授業の導入(平成十二年度)

平成六年度から六年間続いた五十分授業
×七コマを五十五分授業×六コマに変更し
た。

この十年間の進路状況

国立大学の合格者数(実数)を見ると、
平成十一年(三月卒業生)から平成十三年ま
では百人を越えているが、ここ数年は七十人
台から九十人台にとどまっている。また、大
学・短大への進学者数の合計も、同様にやや
少ない年が続いた。一方、就職者数は一桁の
年もあるが、十数名から二十名程度である。
全体的には、大学進学希望者がほとんどで
あり、就職希望者のほぼ全員が公務員試験受験
者であることは変わっていない。

大学入試情勢の変化

①国立大学の大学入試センター試験七科目受
験(平成十六年度)がほぼ必須化。公立
大学も受験科目を増やす傾向。

②国立大学法人による大学運営がスタート。
(平成十六年度)

③国立大学の統合・再編がスタート。(平成
十四年)

④第三者評価機関による、大学の外部評価の

五十分授業×七コマは、弾力的な教育課程の編成を可能にすることがねらいで、全員が履修する必修単位を二十八～三十単位に抑え、七校時目の三～五単位を自由選択の時間とするものであった。また、自由選択科目を部活動で履修できない生徒のために、長期休業中と同じ内容を集中講義し、単位が取得できる形をとった。

その後平成十一年度までこれが続いたが、完全学校週五日制に伴う授業時数確保の問題や、自由選択の授業・集中講義のありかた等について考える必要が出てきたことから、その検討を重ねた。七校時目は平常の授業が継続できず、指導の徹底が難しいこと。部活動顧問が七校時目の教科担当者となった場合は顧問として問題があること。「自由選択」とはいえ、部活動に参加する生徒やその保護者の中に、履修できないことに対する不満や不安を訴えるケースが増えてきたこと。普段の練習や練習試合・遠征等により、その生徒が、集中講義で単位を取得することがかなり困難になってきたこと。といった内容について検討を重ねた結果、五十分授業の導入に至った。なお新教育課程により、更に授業時数確保が必要になったことから、平成十六年度からは週一回木曜日のみ五十分×七コマとしている。

④朝学習

平成五年度から続いている朝学習は、各学年部でそれぞれ工夫を重ね、一、二年生は課題学習が中心で、三年生は補習授業という現在の形になった。一、二年生の朝学習は、朝八時に課題(プリント等)を配布し、教科担当者がそれをチェックして返却する。そこで勉強した内容は、検査や小テストの範囲とする他、提出状況も成績に組み込む。担任と副担任が連携して毎日監督する。

この形には、職員にとつては勤務時間前の指導ということもあり、始まって五～六年間は足並みが揃わない時期もあったが、現在は全職員の協力が得られ、学力向上や授業時数確保の面で大変貴重な存在になっている。

⑤長期休業中の講習

「夏季講習」「冬季講習」は、少しずつその形を変えながら現在に至っている。冬季講習は年末年始を避けてまとまった日数をとる関係で、土日祝日も通して実施することとは変わっていない。一方夏季講習は、ここ数年土日祝日は休みとし、家庭学習や部活動を行うことで気持ちを切り替えさせるようにしている。

夏季講習で最も特徴的なことは、平成十六年度から三年生の教室にクーラーを入れたことである。レンタル業者にこの期間だけ設置してもらうもので、特に三年生は実

施期間が長いことから、少しでも集中できる環境で勉強させようと考え出されたことであった。これは現在も続いている。

⑥高校入学時の指導

入学前の春休みに、高校の学習内容を予習させる目的で、「能代高校へのアプローチ」という本校が作成した問題集を配布している。これは平成三年度に始めたもので、予習の必要性を指導する上で大きな効果を上げている。

平成十六年度から、入学直後の最初の英数国の授業を二コマ連続とする特別時間割を組み、ノート指導・予習復習・提出課題・定期検査・小テストなどへの取り組み方の指導をする「授業導入オリエンテーション」の時間を設けた。これは、教育課程が新しくなった影響もあり、基本的な学習態度等に関する指導の必要性を感じるようになったことから始めたものである。

⑦ホームルームと総合的な学習の時間での進路学習

できるだけ早期に、将来の生活設計と望ましい職業観の形成を図るために、平成五年度から「進路レポート」の作成をしてきた。

一年生が「職業研究」二年生が「学部学科研究」をテーマとし、各自が調べ、レポートにまとめ、時にはクラスで発表し、優れたものを冊子にして配布した。(現在は

冊子の作成はしていない)これは、互いに調べ、まとめ、発表するという大変貴重な学習形態として今も続いている。

また、自分の考えをまとめて、文章や言葉で表現することが求められる場合が多くなっていることから、特にここ数年は小論文の指導を、LHRや総合的な学習の時間の中で、十分時間をかけて段階的に行うようになった。また、業者の小論文模試を各学年とも年二回程組み入れており、その細かな添削指導は効果的に活用されている。

二・三年生では、入試に直結するものとして、大学入試問題を総合的に分析・研究する時間としても活用されるようになった。さらにこの時間を利用して、ディベートに取り組む学年も出てきており、自分の言葉で意見を述べさせる指導の一つとして、注目されている。

予備校等の大学受験に携わる専門家を招いた進路講演会や、大学の先生による講演や特別講義も、各学年で年何回かずつ実施されており、良い刺激になっている。

⑧大学訪問

総合的な学習の時間のまとめ取り(授業との振替)の形で実施する「大学訪問」を毎年行ってきた。これは、一年生全員が秋田県立大学や弘前大学などを希望のコースに分かれて訪問するもので、実際に目で見

て学ぶことができる大変良い進路学習となっている。なお、県の支援事業の予算との関係もあり、他の企画を計画する学年では、この形での大学訪問は実施していない。

また、これは総合的な学習の時間の利用ではないが、二年生の夏休みに、毎年多くの生徒が東北大学のオープンキャンパスに参加している。他の大学や予備校訪問をも組み合わせて希望者を募り、バス二・三台での引率になっている。これも進路意識を育てる意味で、大きな効果を上げている。

⑨理数科の新設

平成十五年四月に普通科理数科くり募集で入学した生徒が、平成十六年度に(二年生から)普通科六クラスと理数科一クラスに分かれて、新設理数科がスタートした。課題研究や大学の研究施設との連携など、普通科とは違った特別な教育課程が組み立てられており、大きな成果が期待されている。

⑩難関大プロジェクト(平成十七年度)

本校はますます大学進学実績の量と質が求められる状況にある。特に、東京大学や東北大学、国立大学医学部などにある程度のが数が常に合格できる「進学校」である必要がある。この難関大学合格を目指す生徒に対し、職員が学年や教科の枠を超えたチームをつくり、組織的・継続的に指導するプロジェクトを組むことにした。早い段階

からの上位者指導を考え、二年生から具体的な指導を始めている。

⑪学級減

平成十七年度入学生から募集定員が一年六クラスになり、ついに本校も一学級減となった。全県的な生徒数の減少に対する県の方針によるもので、能代山本地区の他の高校は、既に定数減となっている。本校では長く一学年七クラスで運営されてきたことから、今後は予算面でのやりくり、部活動の実績や学習成績レベルに対する心配など、難しい対応が予想されている。

より高い目標達成に向けて

大学入試に関する多くの条件が毎年変わる中で、本校として様々な形の進路指導・学習指導に取り組んできたが、生徒の進路希望を確実に達成させることが最も大切であることは言うまでもない。我々はこの基本を大切に、その達成に向けた研修を重ね、生徒の指導にあたらなければならない。本校に課せられている課題は、より高い目標達成に向けた進路指導を充実させること、そして大学や研究機関との連携等による発展的な学習指導を確立することである。文武両道を柱とする中で、この二つが達成できるなら、地域の要望に応える人材を育成できる学校として、今後とも発展し続けるものと確信している。

資料1 最近10年間の進路状況

種別				年度		平成17年3月卒		平成16年3月卒		平成15年3月卒		平成14年3月卒		平成13年3月卒	
卒業生総数				男	163	283	147	262	170	286	163	293	163	278	
				女	120		115		116		130		115		
大学 短大 進学	大	国公立大 管外大	男	45	86	36	64	44	73	41	83	60	98		
			女	41		28		29		42		38			
	大	私立大	男	75	117	47	105	59	97	65	114	58	100		
			女	42		58		38		49		42			
	短	国公立短 管外短	男	1	3	1	2	2	5	2	9	2	5		
			女	2		1		3		7		3			
	大	私立短大	男	2	10	1	8	1	12	0	4	3	7		
			女	8		7		11		4		4			
	小計			男	123	216	85	179	106	187	108	210	123	210	
				女	93		94		81		102		87		
	専修学校・各種 学校等への進学			男	6	18	17	28	22	39	21	33	20	36	
				女	12		11		17		12		16		
就 職 者			男	13	20	9	11	9	13	10	12	4	5		
			女	7		2		4		2		1			
未 決 定 者 (その他を含む)			男	21	29	36	44	33	47	24	38	16	7		
			女	8		8		14		14		11			
合 計			男	163	283	147	262	170	286	163	293	163	278		
			女	120		115		116		130		115			

種別			年度		平成12年3月卒		平成11年3月卒		平成10年3月卒		平成9年3月卒		平成8年3月卒	
卒業生総数			男	177	271	164	288	175	289	167	318	220	327	
			女	94		124		114		151		107		
大学短大進学	大学	国公立大 管外大	男	58	100	67	100	35	66	44	90	51	86	
			女	42		33		31		46		35		
		私立大	男	67	97	57	105	76	16	77	125	77	114	
			女	30		48		40		48		37		
	短大	国公立短 管外短	男	0	1	0	6	1	9	1	6	3	5	
			女	1		6		8		5		2		
		私立短大	男	1	5	1	7	0	6	0	7	1	9	
			女	4		6		6		7		8		
	小計		男	126	203	125	218	112	197	122	228	132	214	
			女	77		93		85		106		82		
	専修学校・各種 学校等への進学			男	18	29	16	29	22	40	9	22	25	33
				女	11		13		18		13		8	
就 職 者			男	5	6	7	9	16	17	16	29	17	18	
			女	1		2		1		13		1		
未 決 定 者 (その他を含む)			男	28	33	16	32	25	35	20	39	46	62	
			女	5		16		10		19		16		
合 計			男	177	271	164	288	175	289	167	318	220	327	
			女	94		124		114		151		107		

資料2 国公立管外大学過去10年間合格者数（現役）

大学名	年	平17	平16	平15	平14	平13	平12	平11	平10	平9	平8
北海道大		2	1	2		1	3	1	1	1	1
北海道教育大		1	1	6	4	2	3	4	2	1	3
北見工業大		1		2		2	1				
室蘭工業大		1		1						1	
弘前大		19	10	9	16	10	5	14	4	8	15
岩手大		3	2	2	6	5	8	4	3	7	3
東北大		4	7	6	2	8	5	6	1	8	4
宮城教育大		1	3	1	1	5	2	2	3	1	
秋田大	教育文	8	3	6	7	7	10	12	7	11	22
	医	1	1	1		1					2
	工学資	12	7	3	4	12	7	9	7	7	18
	計	21	11	10	11	20	17	21	14	18	42
山形大				3	3	2	7	5	9	9	8
福島大		3	2		3	1	5	5	1	6	1
茨城大		7	2	3	4	3	6	1	7	3	
筑波大		2	3				1	2	1	1	2
図書館情報大					1		1		1		2
宇都宮大		2		1	3	1		1		2	3
群馬大			1	1	1	1	1	1		1	
埼玉大		2	3		5	4	3	1		1	2
千葉大		1		2	2	1	5	2	1	2	3
電気通信大		1				1	1			2	
東京大								1		1	
東京外国語大		1		1	1	1			1		
東京学芸大				1	1	1	1	4			3
東京工業大						1					
横浜国大		3	2	1			4	2	2	2	
新潟大		3	5	8	6	8	6	7	6	9	6
信州大			1		1	1			1		
富山大				1	2	1		3	5	3	
富山医科薬科大			2			1	3	1			1
金沢大			1	1	1		3	1	3	3	1
静岡大			2							1	
京都市大							1				
奈良女子大						1					
釧路公立大			1	2	2	1	2	3	4	3	2
札幌医科大					1						
青森県立保健大					1		3	1			
青森公立大				2		1	1	5	3	4	5
岩手県立大		5					1	1	2		
秋田県立大		5	5	3	5	5	4	5			
国際教養大		1	1								
会津大			1			1					
群馬県立女子大			2		1	2			1	1	
埼玉県立大			1	1							
高崎経済大		1	1	1	3	4	1		1	2	
都留文科大			1		2	4	1	4	2	4	2
福井県立大						1				1	
静岡県立大						1	1				
愛知県立大						1				1	1
大阪市立大					1	2	1				1
神戸市外国語大					1	1					
その他大学		5		3	1	4	8	11	7	6	5
管外大学		1			2	2	4			2	
合 計		96	72	74	94	112	119	119	86	115	116

資料3 私立大学過去10年間合格者数（現役）

大学名	年	平17	平16	平15	平14	平13	平12	平11	平10	平9	平8
札幌大		4	4	1	4	1	8	7	5	3	1
札幌学院大		4	1	1	1	3	6	3	7	16	5
北海道医療大		3	3	4		1	4	1	1	4	2
北海道薬科大		2	1			1	2	4	2	3	
青森大		6	3			1	4	3	5	3	2
岩手医科大		1						2			
東北学院大		14	10	5	9	6	4	14	15	26	20
東北福祉大		6		4	2	3		2	4	3	4
東北薬科大		2	4	3	2	2	3	2	4	4	
秋田看護福祉大		6									
秋田経済法科大		5	2	1	2	3	9	1	8	9	10
国際医療福祉大				4	2		1	1	2		
駿河台大				2	1	5	6	2	8	1	2
獨協大		2		2	4	5	2	2	2	1	2
文教大		4	4	3	5	7	11	6	4	4	4
神田外国語大				3	4				2		1
千葉工業大		2	2	3	3		1	1	5	2	2
青山学院大		6	2	4	3	2	1	3	1		1
亜細亜大					3		2	2	1	5	1
大妻女子大		2	2	2	1		1	5	1		
学習院大			1		1	1	1	2	2	1	1
北里大			3	1		3		2			1
慶応大		1	1		2	2	3	3			
國學院大		1	3		1	3	1	2			1
国士舘大		2	2		3	3	3			1	2
駒澤大		4	1	1	2	3	1	5	4	4	1
上智大		1		1	1		1		1		1
昭和薬科大		2	1	2	1				1		
専修大		2	2	7	4	4	5	6	3	2	2
大正大		3	2	3	2	1	2	2	1		1
大東文化大		3	4	2	7	9	13	3	3	6	10
玉川大		1	3	1		1	1	5			1
中央大		7	6	8	1	3	7	4	4	3	1
津田塾大		1	2		1	1	2	2	2		
帝京大		6	4	2	4	6	3	2	1	3	5
東海大		8	6	3	5	9	5	5	6	8	2
東京電機大		1			2	2	1		2	2	1
東京農業大		1				1	1			1	1
東京理科大		2	2	5	2	4	2	5	2	3	11
東洋大				10	7	4	4	4	1	7	3
日本大		12	4	5	7	9	10	5	5	15	11
法政大		8	1	3	4	3	2	8	3	2	4
明治大		6	3	6	5	11	9	7	2	7	5
明治学院大		3	4	1	5	3	2	4	5		
明治薬科大			1	2	1				2		
立教大		3	1	1	1	2	2	2	1	3	2
立正大		3	3	3	6	5	6	8	7	8	5
早稲田大			7	2	3	3	5	3	3	4	3
神奈川大		3	2	11	9	5	6	3	3	7	4
関東学院大		3	2	2	3	4	4	4	7	5	1
中京大			1		1		1		1	1	
同志社大		1	1	2	2	2	2				
立命館大		4		1	2	1	1	3	3	1	1
関西外国語大					1	1			1		
その他大学		98	70	56	70	81	84	100	88	133	83
合計		259	181	183	212	230	255	260	241	311	221